

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	電気工学実験実習Ⅲ C	
科目基礎情報							
科目番号	24024			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気工学科			対象学年	4		
開設期	4th-Q			週時間数	4		
教科書/教材	実験テキスト						
担当教員	池田 風花,吉田 雅史						
到達目標							
① これまで学んだ知識・技術を適用して、実験実習の目的・原理が理解できる。 ② 実験実習の手法を習得して実施し、結果を得ることができる。 ③ 実験実習の結果を整理・図表化等してレポートが作成できる。 ④ 実習結果又は測定結果の妥当性や考察等について論理的に説明ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1		実験実習の目的・原理を理解し、説明できる。	実験実習の目的・原理について、一部理解できていないところもあるが、概略は説明できる。	実験実習の目的・原理について最低限の項目を理解し、説明できる。	実験実習の目的・原理を説明できない。		
評価項目2		実験実習の手法を習得し、自らの力で実施して結果を得ることができる。	教員の僅かな助言により実験実習の手法を習得し、実施して結果を得ることができる。	教員の部分的な助言により実験実習の手法を習得し、実施して結果を得ることができる。	教員の助言を受けても実験実習の手法を習得できず、実施して結果を得ることができない。		
評価項目3		実験実習の結果を整理・図表化してまとめ、レポートが作成できる。	実験実習の結果について、最低限の整理・図表化ができており、体裁の整った実験レポートを作成することができる。	実験実習の結果について、整理・図表化が不十分であるが、最低限の項目を実験レポートにまとめることができる。	実験実習の結果を整理・図表化してレポートにまとめることができない。		
評価項目4		実験結果の妥当性や考察等を行い論理的に説明できる。	実験結果の妥当性や考察等について、教員の僅かな助言により論理的に説明できる。	実験結果の妥当性や考察等について、教員の一部分的な助言により論理的に説明できる。	教員の助言を受けても実験結果の妥当性や考察等を行うことができず論理的に説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電気工学実験実習ⅢCでは、電気機器、高電圧の2分野の実験実習を行う。						
授業の進め方・方法	電気機器、高電圧の2分野について、実験を通して理解を深める。関連科目は、電子回路Ⅰ、電気機器Ⅰ・Ⅱ、高電圧工学である。座学の内容をしっかりと復習して臨んでほしい。						
注意点	電気機器実験や高電圧実験は危険を伴うことがあるので、十分注意してください。 ピアス等アクセサリは外し、ベルトやフードの紐などのない服装で参加してください。 また、踵のある靴を履いてきてください。 レポートを提出期限内に提出できない場合は減点します。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	4thQ	9週	オリエンテーションと安全指導	オリエンテーションと安全指導を行う			
		10週	単相変圧器の特性	無負荷試験、短絡試験により鉄損、銅損を求め、多様な負荷条件での効率計算を行う			
		11週	直流発電機の無負荷特性	他励運転により、無負荷飽和曲線を測定し、自励にして実験を行い自己励磁現象、臨界界磁抵抗について説明ができる			
		12週	損失分離法を用いた誘導電動機の特性算出	損失分離法を用いて誘導電動機の鉄損、銅損などの損失を求めることができる。また、それらの結果を用いて誘導電動機の効率を求めることができる			
		13週	太陽光発電システムの基本特性	太陽電池の電圧・電流特性及び発電特性の測定及び太陽光発電システムが電力系統と連系するための系統連係インバータの基本機能・動作・保護システムの基本特性の測定を行い、実験結果に対して比較検討できる。			
		14週	コロナ放電と気中火花放電特性試験	大気中のコロナ放電現象の観測及び電極形状や電圧の種類の違いによる火花放電電圧の測定を行い、結果に対して比較・検討できる。			
		15週	固体絶縁体の絶縁破壊特性試験	交流、直流高電圧による固体絶縁物の絶縁特性を試験する。試験結果から絶縁物の絶縁破壊における絶縁物の厚み、媒質効果について検討できる。			
		16週	まとめと振り返り	まとめと振り返りを行う			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		レポート	態度		合計		
総合評価割合		80	20		100		

目的・原理が理解できる	15	0	15
実験手法が理解できる	15	0	15
実験結果の整理や図表化が出来る	25	0	25
実験結果に対する考察が出来る。	25	0	25
協力して実験が出来る	0	20	20